

令和6年4月18日

言葉だよりNo.1 (第422号)

「三瓶分校最後の年にあたって」

宇都宮

皆さんも知っていると思いますが、この三瓶分校は、1920年山下亀三郎さんらによって設立された第二山下実科高等女学校にはじまります。そして、創立104周年となる今年度で、長い歴史と伝統に幕を閉じることになります。

三瓶分校は令和5年度から募集停止になったため、私たちの一つ下の後輩から、三瓶中学の卒業生たちは、自転車やバス、保護者の送迎などで他の地域の高校に通わなければならなくなっていて通学が不便になっています。私は宇和高校の野球部の一員として活動していますが、宇和高校の野球部の中にも三瓶中学の後輩がいて、普段の登下校が大変そうです。その様子を見たり話しを聞いたりしていると、地元にあるこの三瓶分校で学ぶことができる私たちは幸せだなと感じます。皆さん、通学に便利なこの三瓶分校で落ち着いて学ぶことができることに感謝の気持ちを持って、この一年を過ごしていきましょう。

閉校まで一年を切って私たちの学年だけとなり、寂しさも感じますが、僕たち14名で最後の三瓶分校を良い形で締めくくることができるよう、持ち前の明るさと仲の良さを最大限に発揮して、最後の三瓶分校を盛り上げていきましょう。

そのために今までの行事も今まで通り行うのではなく生徒会を中心に生徒、先生方の良い意見やアイデアを聞き、より楽しく素晴らしいものにできたらと思います。サバイバルウォークでは、「保護者や地域の方々にも参加してもらっては？」という案も出ています。私は、生徒会長として、サバイバルウォークだけでなく様々な学校行事の際に、クラスみんなの意見を聞き、できる限り実現できるように頑張りたいと思います。時には担任の野村先生に無理なお願いをすることがあるかもしれませんが、よろしくお願いします。

少人数だからこそ、先生方・生徒の皆さんで意見・アイデアを出し合って、この三瓶分校の有終の美を飾ることができるよう力を合わせて頑張っていきましょう。